

目的 パーソナル・カラー，人格色と訳す。

第22回本総会で，嗜好色とパーソナル・カラーとの意味づけをおこなってきた。個人差はあるが，パーソナル・カラーを意識し始めるのは青年前期頃ではないかとのべた。

その後，新しいグループの調査が進んだので，その内容を比較，検討し，さらにパーソナル・カラーの役割について考察した。

方法 調査対象は東京家政学院中学・高校生（女子13～18才）延960名で，時期は1965～71年にわたり，日本色彩研究所作成の150色を用いて質問紙法により追跡調査をおこなった。色彩の観察はJ I S Z 8 7 2 3に従った。分類は改訂調査用カラーコードに準じた。

結果 個人の追跡によりパーソナル・カラーはブルー，レッド，ホワイト圏でありほとんどの被験者は青年前期中期に，このいずれかを意識している。

また，同一グループ間では年齢が近いほど相関が高い。異ったグループ間の相関は13才では0.92，15才0.59，18才0.87となり，15才頃が変化しやすい時期と思われる。

これらは前報とほぼ同じ傾向である。

パーソナル・カラーはその人らしさ，その年代をあらわす色彩といえるので，服飾に関連した多くのものへの利用が考えられる。